

来年度に向けた提案

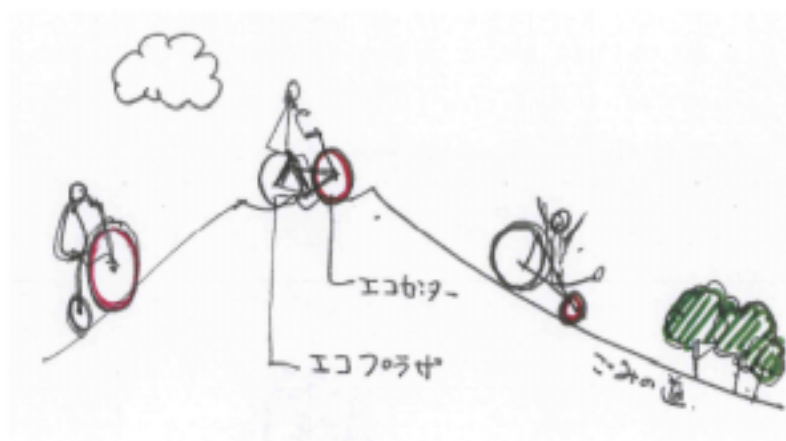
提案 1. ロゴ（又はシンボル）マーク、さし絵等

クリーンセンターの今後について、協議会の成果をわかりやすい形で残したい。

“次世代のごみ処理”がどうなるかという課題は、現計画のエコセンターエコプラザを越えて、周辺にとっては永遠の課題である。現計画の用地選定の際にも、現在のクリーンセンターが出来てから、次への準備（話し合い）が行われてこなかったことが問題となり、次のクリーンセンターの稼働で終わりではないという意見があった。

次世代のごみ処理につなげることで、継続的にごみの事を考えて行くためには、報告書や提言だけではなく、子どもでもわかる（注意を引く）しかけがほしい。

● 例えば・・・の図

**提案 2. エコプラザに向けた先行プログラム**

協議会の議論から、エコプラザの今後につながるアクションを方向性が見出された。これからエコセンター・エコプラザ着工までの間に、まだまちづくり協議会の話し合いは進められるが、平行してエコセンターのプログラムに反映させるための実践的な企画を行うことの提案である。

提案の視点

- ・一過性のイベントのようなものではなく、定期的に行う。
- ・市民の多様な世代、行政、地元が参加できる企画

企画案

“ボタン工場”

リサイクルの中で注目の集まった、ボタンのリサイクルを試験的に行う。

○実践に向けた様々な思いつき

- ・古着→解体→（ぼろ、きれいな布、ボタン）→分類（ボタンのストック、きれいな布はつないでキルト、雑巾、）→裁断くずは焼却へ（ごみの流れ減量等の記録をとる）
- ・主に子ども達（全市）を対象に大人はサポートするかたちをとり、先行して市民が行っている“むさしのミニタウン”や“あそべえ”の協力をいただく。
- ・行政の関わりも新しい形で、若手を中心に、ボランティアで参加（市民の行政も無理をしない、自分のやりたいことで力を発揮する）
- ・対価はポイントで。地域通貨の活用（エコ活動をもとにした全市共通エコ通貨）